



山下 直子 Yamashita Naoko
関西支所

里山の広葉樹林は、かつては人々の暮らしを支える燃料材や食糧、生活資材などの供給源として利用されてきました。日本で古来から受け継がれてきた広葉樹利用の知恵、職人技術、木を使う伝統や文化からは、樹種の特性を見極め適材適所に利用してきた先人たちの造詣の深さを感じられます。

一方、現在の広葉樹林はどのように扱われているのでしょうか？ 樹種やサイズ、林齢の揃った人工林とは異なり、広葉樹林は姿かたちもさまざまです。そのため、資源の見積もりや規格の揃った材の安定供給が難しく、「一山いくら」で多くがチップなどの低質材として安い価格で取引されている現状です。

広葉樹林は、生物多様性をはじめとした多岐にわたる生態系サービスをもつ環境要素であり、これらの機能の中で木材生産はほんの一つでしかありません。木材を生産するために環境としての多様な

多様な広葉樹を未来に繋ぐ

機能がリセットされてしまうにもかかわらず、生産された材は丁寧に仕分けられることもなく、その約9割がチップとして安い値段で流通しているのです。一度失われた資源が再生するには何百年という長い時間がかかります。今後は、利用後の森林再生の行方をしっかり見定めるための調査研究も必要です。

広葉樹林がもつ多様性は、未来に残すべき財産です。次世代の更新木が担保された場合のみ材を供給するといった持続性を重視した地域プロジェクトもあり、このような取り組みを支援する企業も増えています。

(2023年10月13日開催講座より)



祇園祭などの祭礼行事に用いられる山鉾や曳山、屋台の車軸にはアカガシが使われてきた。現在、アカガシは全国的に不足しており、流通量はごくわずかしかないが、その一方で、全国各地の山鉾や曳山、屋台などの部材は定期的に修理が必要で、アカガシの育成が各地の祭りの継承にとって大きな課題となっている。写真は滋賀県日野町の曳山。

令和7年度 森林講座のお知らせ

6月13日(金曜日)

「樹木に不可欠な水は
木材利用の悩みの種」

鳥羽 景介(木材加工・特性研究領域)

7月11日(金曜日)

「ボルネオの森のきのこ昆虫」

山下 聡(生物多様性・気候変動研究拠点)

8月20日(水曜日)

「シカは減っているのか？
効率的な個体数管理のためのメスジカの捕獲」

鈴木 圭(九州支所)

9月19日(金曜日)

「野と林の近現代史」

八巻 一成(関西支所)

10月24日(金曜日)

「木の香りを活かして、
生活を少し豊かに」

森川 卓哉(森林資源化学研究領域)

11月21日(金曜日)

「雪と森林」

勝島 隆史(森林防災研究領域(十日町試験地))

12月(日付調整中)

「固有種の宝庫、小笠原諸島の
林木遺伝資源保全に向けた取組」

玉城 聡(林木育種センター遺伝資源部)

1月22日(木曜日)

「日本へとつながるアジア大陸の人類移動
氷河期の森林拡大が要因だった」

志知 幸治(四国支所)

2月5日(木曜日)

「赤トンボの知られざる旅
—生息地のつながりを理解しよう—」

東川 航(九州支所)

開催時間：毎回 午後1時15分～3時
日付調整中の講座開催日は決まりしだい、
右記二次元コードのURLにてご案内します。

森林・林業や木材への関心や理解を深めていただこうと、一般の方々を対象にした「森林講座」を多摩森林科学園森の科学館で新年度も開きます。受講無料。

◆受講申込み

メールまたは往復はがきで、講座名と受講人数(最多3人まで)、受講者(複数人場合は代表者)の郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記して下記の申込先にお送りください。講座開催日の前月1日から受け付け、先着順で定員30名に達し次第、または開催2日前に締め切ります。詳しくは下記「森林講座(2025年度)」ページをご覧ください。

◆講座会場・申込先・問合せ先

多摩森林科学園

メール: shinrinkouza@ffpri.affrc.go.jp

〒193-0843

東京都八王子市廿里町1833-81

お問合せ電話: 042-661-1121

◆「森林講座(2025年度)」ページ

